

「品質管理レビューの概要」(冊子)に関するアンケート結果(要約)

2018年11月

I 目的

次年度の「品質管理レビューの概要」等の作成の参考とするため

II 方法

アンケート用紙を「品質管理レビューの概要」(冊子)に同封し郵送
回答は、協会 Web サイト、FAX、電子メール、郵送で提出

III 提出期間

2018年7月18日から2018年8月31日まで

IV 対象及び回答数

	発送数	回答数	回答率(%)
上場企業(監査役等)	3,713	407	11.0
CPA 社外役員	621	17	2.7
機関投資家	851	15	1.8
レビュー対象監査事務所	185	60	32.4
合計	5,370	499	8.5

※ 1社について複数の監査役から回答がある場合、それぞれ1件として回答数に含めている。

V 回答方法

アンケートの回答に当たって利用された回答方法は、以下の表のとおりである。

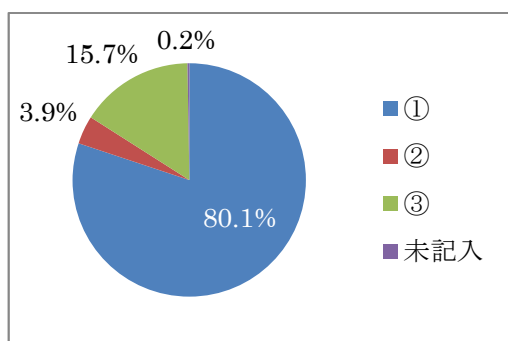
	Web	メール	FAX	郵送
上場企業(監査役等)	287	28	91	1
CPA 社外役員	11	0	6	0
機関投資家	8	2	5	0
レビュー対象監査事務所	51	5	4	0
合計	357	35	106	1

VI アンケート項目

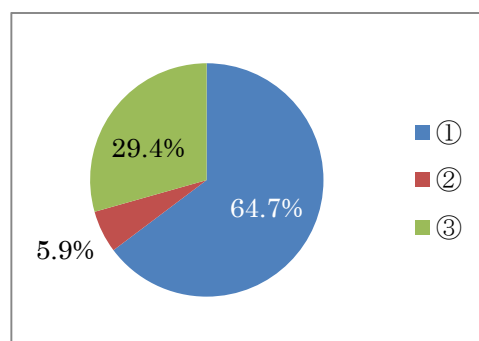
Q 1 全体を通して、「本冊子」の記載内容は分かりやすいと思われたでしょうか。（共通質問項目）

選択肢	上場企業 (監査役等)	CPA 社外役員	機関投資家	レビュー対象監 査事務所
①分かりやすい	326	11	12	56
②分かりにくい	16	1	0	3
③どちらともいえない	64	5	3	1
未記入	1	—	—	—
合 計	407	17	15	60

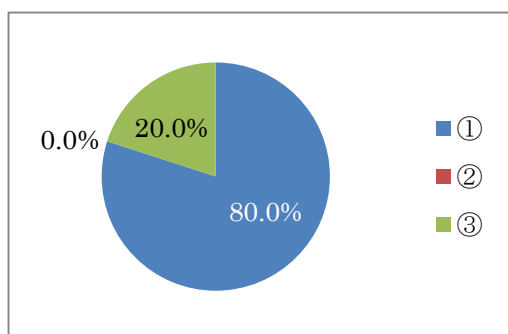
■上場企業（監査役等）



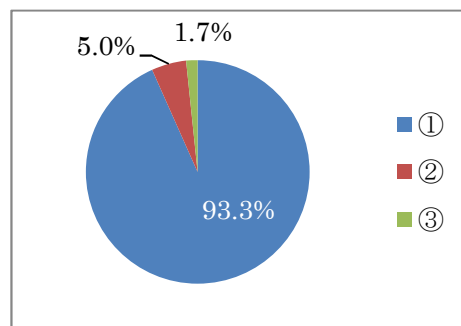
■CPA 社外役員



■機関投資家



■監査事務所



Q 1について「分かりやすい」と回答した監査役等の割合は80.1%（407名中326名）、CPA社外役員の割合は64.7%（17名中11名）、機関投資家の割合は80.0%（15名中12名）であった。

また、「分かりやすい」と回答したレビュー対象監査事務所の割合は93.3%（60名中56名）であった。

Q2 「本冊子」の記載のうち、特に、分かりやすいと思われた項目及び分かりにくいと思われた項目は何ですか。
 (複数選択可) (共通質問項目)

オレンジ：「分かりやすい」95%以上 水色：「分かりにくい」30%以上

選択肢	上場企業 (監査役等)		CPA 社外役員		機関投資家		レビュー対象監査事務所	
	分かりやすい	分かりにくい	分かりやすい	分かりにくい	分かりやすい	分かりにくい	分かりやすい	分かりにくい
①日本公認会計士協会について	98.1% (263)	1.9% (5)	78.6% (11)	21.4% (3)	87.5% (7)	12.5% (1)	97.3% (36)	2.7% (1)
②自主規制団体としての日本公認会計士協会の役割	95.4% (269)	4.6% (13)	68.8% (11)	31.3% (5)	90.0% (9)	10.0% (1)	94.6% (35)	5.4% (2)
③品質管理レビュー制度	89.9% (319)	10.1% (36)	68.8% (11)	31.3% (5)	100.0% (14)	0.0% (0)	95.7% (45)	4.3% (2)
④品質管理レビュー制度と公認会計士・監査審査会との関係	82.8% (269)	17.2% (56)	42.9% (6)	57.1% (8)	66.7% (6)	33.3% (3)	94.7% (36)	5.3% (2)
⑤平成29年度の品質管理レビューの実施状況及び実施結果	81.5% (265)	18.5% (60)	81.3% (13)	18.8% (3)	80.0% (8)	20.0% (2)	90.2% (46)	9.8% (5)
⑥平成29年度の通常レビューにおける改善勧告事項	84.0% (272)	16.0% (52)	70.6% (12)	29.4% (5)	100.0% (11)	0.0% (0)	83.3% (40)	16.7% (8)
⑦改善勧告事項が生じた原因と対策	78.0% (238)	22.0% (67)	60.0% (9)	40.0% (6)	66.7% (6)	33.3% (3)	83.8% (31)	16.2% (6)
⑧上場会社監査事務所登録制度の概要	89.1% (245)	10.9% (30)	78.6% (11)	21.4% (3)	87.5% (7)	12.5% (1)	91.7% (33)	8.3% (3)
⑨平成29年度の上場会社監査事務所名簿等の状況	91.4% (233)	8.6% (22)	92.3% (12)	7.7% (1)	100.0% (9)	0.0% (0)	97.2% (35)	2.8% (1)
⑩品質管理審議会からの勧告事項への対応	79.1% (216)	20.9% (57)	85.7% (12)	14.3% (2)	50.0% (4)	50.0% (4)	88.2% (30)	11.8% (4)
⑪今後の行動計画	84.4% (216)	15.6% (40)	71.4% (10)	28.6% (4)	55.6% (5)	44.4% (4)	91.7% (33)	8.3% (3)
合計	86.5% (2805)	13.5% (438)	72.4% (118)	27.6% (45)	81.9% (86)	18.1% (19)	91.5% (400)	8.5% (37)

Q2に対して寄せられた主なコメントは、以下のとおりである（機関投資家からのコメントはなかった。）。

通番	Q2に対して寄せられた主なコメント（監査役等）
1	今年から初めて監査業務に携わっているが、業界として一定の自主規制を行っていることが分かった。
2	冊子上で紹介のあった貴協会のウェブサイト公表「品質管理レビュー事例解説集」を拝読し、「⑥平成29年度の通常レビューにおける改善勧告事項」・「⑦改善勧告事項が生じた原因と対策」がより深く理解できた。事例開示と解説に感謝する。
3	「改善勧告事項の事例」の具体例を読むと自社の監査法人を評価する際の参考になる。本年度より事例集を出されるとのことなので大変ありがたい取組で期待している。
4	品質管理レビューの実施内容について、全体の監査事務所との割合・構成を示してほしい。実施したところや是正勧告した件数・割合だけでは傾向が分からない。
5	この冊子が対象としているのは、企業の監査役等でしょうか。それとももっと広いのでしょうか。

通番	Q2に対して寄せられた主なコメント（CPA 社外役員）
1	実施結果については参考となった。利用法としては監査の専門家として、制度全体の主旨と理解を会社に働きかけたい。
2	レビュー計画策定、レビュー実施からレビュー報告書・改善勧告書提出、改善計画書提出までの一連の流れを記載してはどうか。1監査事務所に対し通常何名で何日くらいかけてレビューを実施しているのかも知りたい。
3	限定事項付き結論と否定的結論とのレベル感がよく分からない。否定的結論に関しても、解説を記載してはどうか。

通番	Q2に対して寄せられた主なコメント（レビュー対象監査事務所）
1	「⑥平成29年度の通常レビューにおける改善勧告事項」、「⑦改善勧告事項が生じた原因と対策」について、以前より具体的に記載されておりわかりやすくなっている。
2	昨年度16あった限定付は当年度通常レビューが入っていると思われるが、どういう結果になったのか。それは法人がどんな改善をして翌年限定事項のない結論になったのかも併せてコメントすると分かりやすい。さらに、品質管理レビューで改善したとされる監査事務所がその後公認会計士・監査審査会の検査でどのような結論になったのかも開示すると品質管理レビューの有効性に対する関係者の判断に資すると思われる。

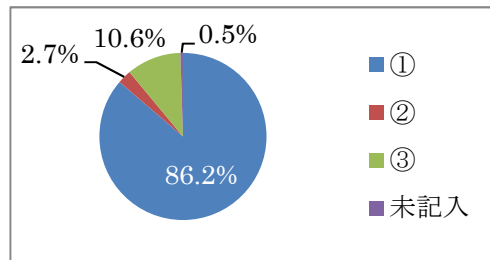
■上場企業（監査役等）及び CPA 社外役員のみ質問項目

Q3 全体を通して「本冊子」の記載内容は会計監査人の評価や会計監査人とのコミュニケーションに当たり、参考となりましたか。

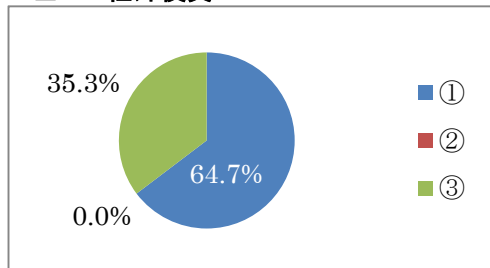
選択肢	上場企業 (監査役等)	CPA 社外役員
①参考になった	351	11
②参考にならなかった	11	0
③どちらともいえない	43	6
未記入	2	0
合計	407	17

会計監査人の評価や会計監査人とのコミュニケーションに当たり、本冊子が参考になると答えた人の割合は、監査役等で 86.2%、CPA 社外役員で 64.7%となった。

■上場会社（監査役等）



■CPA 社外役員

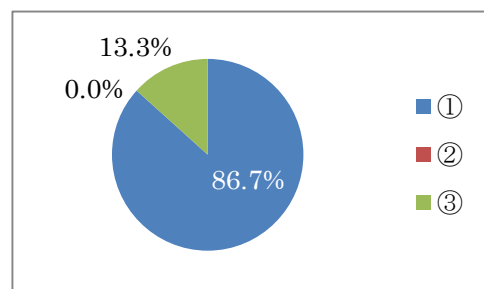


■機関投資家のみ質問項目

Q3 全体を通して「本冊子」の記載内容は会計監査（公認会計士監査）及び品質管理レビュー制度の理解に当たり、参考となりましたか。

選択肢	機関投資家
①参考になった	13
②参考にならなかった	0
③どちらともいえない	2
合計	15

会計監査（公認会計士監査）及び品質管理レビュー制度の理解に当たり、本冊子が参考になると答えた機関投資家の割合は、86.7%であった。

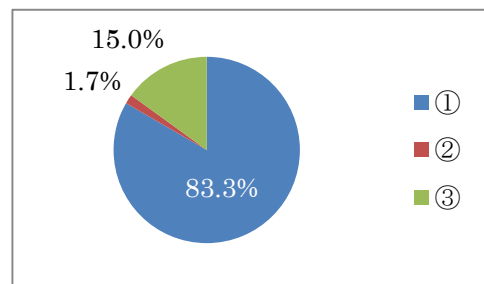


■レビュー対象監査事務所のみ質問項目

Q3 全体を通して、「本冊子」の記載内容は、品質管理レビュー制度の理解及び監査役等とのコミュニケーションに当たり、参考となりましたか。

選択肢	レビュー対象監査事務所
①参考になった	50
②参考にならなかった	1
③どちらともいえない	9
合計	60

品質管理レビュー制度の理解及び監査役等とのコミュニケーションに当たり、本冊子が参考になると答えたレビュー対象監査事務所の割合は、83.3%であった。



Q4 「本冊子」の記載のうち特に参考になった項目は何ですか。

(複数選択可)

網掛けは特に回答が多かった項目

選択肢	上場企業 (監査役等)	CPA 社外役員	機関投資家	レビュー対象監 査事務所
①日本公認会計士協会について	42	3	0	3
②自主規制団体としての日本公認会計士協会の役割	77	3	5	5
③品質管理レビュー制度	221	8	8	32
④品質管理レビュー制度と公認会計士・監査審査会との関係	167	2	5	18
⑤平成 29 年度の品質管理レビューの実施状況及び実施結果	183	8	4	28
⑥平成 29 年度の通常レビューにおける改善勧告事項	223	10	7	30
⑦改善勧告事項が生じた原因と対策	181	10	4	22
⑧上場会社監査事務所登録制度の概要	45	1	2	5
⑨平成 29 年度の上場会社監査事務所名簿等の状況	31	2	0	7
⑩品質管理審議会からの勧告事項への対応	58	3	0	8
⑪今後の行動計画	64	1	1	6
合計	1,292	51	36	164

「参考になった項目」として、特に「③品質管理レビュー制度」、「⑥平成 29 年度の通常レビューにおける改善勧告事項」及び「⑦改善勧告事項が生じた原因と対策」を挙げている。

なお、Q4 に対して、寄せられた主なコメントは、以下のとおりである（機関投資家からのコメントはなかった。）。

通番	Q4 に対して寄せられた主なコメント（監査役等）
1	改善勧告事項等については、可能な範囲内で、より具体的内容を記載していただければ、より業務上の参考になると思う。
2	24 頁の「改善勧告事項の事例」及び 33 頁の「(参考 2) 上場会社の会計監査人の異動状況」は、大変具体的で興味深く拝読、今後の参考になった。
3	参考資料の上場会社の会計監査人の移動状況の異動理由が面白かった。こういう具体的で生々しい方が、会計監査人との付き合い方を含めて参考になる。
4	会計監査人の異動理由が、立場によって異なっている事が興味深い。
5	会計監査人による当社の監査が、日本公認会計士協会又は公認会計士・監査審査会のレビュー及び審査の対象となったかを会計監査人に訊くことは毎年実施しているが、それ以上のことを会計監査人とコミュニケーションの題材にしたことはなかった。改めて本資料を基に、会計監査人とコミュニケーションを行いたい。

通番	Q 4 に対して寄せられた主なコメント (CPA 社外役員)
1	会計監査人と品質管理レビュー結果についてディスカッションを行う際、改善勧告事項の取り扱いについて監査委員としてどのように理解したら良いかが分かった。
2	「②自主規制団体としての日本公認会計士協会の役割」は、回りくどくて第三者（公認会計士以外）には分かりづらい。
3	「⑤平成 29 年度の品質管理レビューの実施状況及び実施結果」の (3) は興味深い。
4	⑥～⑩には、CPA 社外役員としては興味がない。
通番	Q 4 に対して寄せられた主なコメント (レビュー対象監査事務所)
1	品質管理レビュー制度の概要や最近の状況について説明する際に参考にできればと思う。改善勧告事項が生じた原因と対策についてはどのような分析手法を取って根本原因を解明したのか興味がある。
2	品質管理担当責任者としてレビュー制度自体の仕組みは理解しているつもりである。本冊子が監査役等とのコミュニケーションに役立つとは思われず、事務所で作成した監査終了後に作成する報告書の方が相手方の意向を踏まえたものとなっており、本冊子を利用する必要性を感じない。

Q 5 「本冊子」は毎年度、作成し公表している「品質管理委員会年次報告書」（以下「年次報告書」といいます。）の概要編を冊子としたものです。「年次報告書」をご存知ですか。

なお、2018 年度の「年次報告書」が掲載されている協会ウェブサイトは次の URL となります。

<https://jicpa.or.jp/about/activity/self-regulatory/quality/>

(共通質問項目)

選択肢	上場企業 (監査役等)	CPA 社外役員	機関投資家	レビュー対象 監査事務所	合計
①毎年度、読んでいる	37	2	0	37	37
②読んだことがある	125	11	4	19	19
③知っているが読んだことがない	89	2	2	3	3
④知らなかった	148	2	8	1	1
未記入	8	0	1	0	9
合計	407	17	15	60	499

「毎年度、読んでいる」及び「読んだことがある」と回答した割合は、監査役等の場合 39.8% (407 名中 162 名)、CPA 社外役員の場合 76.5% (17 名中 13 名)、機関投資家の場合は 26.7% (15 名中 4 名)、レビュー対象監査事務所の場合は 93.3% (60 名中 56 名) であった。

**Q6 「本冊子」及び「年次報告書」について、改善すべき点等、ご意見、ご要望があればご記載願います。
(共通質問項目)**

上場企業（監査役等）から 60 件、CPA 社外役員から 4 件、機関投資家から 1 件、レビュー対象監査事務所から 10 件の意見、要望があった。

寄せられた意見・要望は、2018 年度の「品質管理レビューの概要」及び「年次報告書」の作成の参考とする。

主な意見・要望は、以下のとおりである。

通番	コメント例（監査役等）
1	監査法人全体の監査品質の動向、課題等が良くまとめられており、上場会社の監査役として、担当監査法人の公認会計士の先生との、情報、意見交換の際の参考になる。
2	監査役は会計監査人に質問する際にそもそもどういう着眼点で会計監査人が監査をすべきなのか（しなければならないのか）がわからないと、質問もしにくいので、「改善勧告事項」は非常に役に立つと思う。事例解説集もダウンロードでなく冊子で送付してもらえると活用しやすいと思う。
3	（参考 2）会計監査人の異動状況は入手できない情報であり、会計監査人の評価の結果と結びつくと考えられるものですが、品質管理の状況以外に関連する要素が分かり、参考となった。継続的に掲載されることを望む。
4	レビュー結果から推定すると、大手監査法人と中小監査法人とでは、監査品質のレベルに差があるのではないかとと思われる。双方に特徴的な問題点がそれぞれ記載されていると、会計監査人の評価及びコミュニケーションに有用ではないかと考える。

通番	コメント例（CPA 社外役員）
1	（参考 2）会計監査人の異動状況【異動理由】が前任監査人と後任監査人とでは回答数に大きな差異のあるところは、その理由をもっと究明してほしい。

通番	コメント例（レビュー対象監査事務所）
1	「品質管理レビューの概要」は、当監査事務所の監査業務の水準が他の監査事務所と比較してどのレベルにいるのかが良く分かる。「品質管理レビュー事例解説集」と合わせて精読していきたいと思っている。
2	制度の説明も大切だが、事例をより多くして、読み物としても楽しめる形式にした方が、監査役等も読んでみようと思うことが増えるのではないかと考える。

以 上